2012年政策フォーラム　活動報告書

***ISFJ Inter-university Seminar for the Future of Japan***

　文責：山口　大貴

【日時】

2012年12月1.2日

【概要】

12月1日、12月2日の二日間にわたり開催されたISFJ2012政策フォーラムでは、5月から活動を開始したISFJ2012参加研究会の6か月間の研究の集大成の場となりました。

12月1日の研究発表会では、パワーポイントを用いた各研究会の発表を、問題意識の近いテーマを扱ったゼミを集めた分科会の中で行いました。プレゼンテーションは事前に提出された最終論文にのっとり、各研究会の半年の研究の成果を披露し、学生同士や専門家の皆様との意見交換の場となり、また分科会終了後にも研究チーム間、ゲスト様と学生の間での質疑応答やより深い議論を行っている様子が見られました。

さらに、事前に行われた第1次論文審査と、当日に研究発表会と並行して行われる特別論文審査を経て、特に優秀だと評価された5チーム(慶應義塾　廣瀬康生研究会、京都大学　岩本武和研究会、京都産業大学　福井唯嗣研究会、慶應義塾大学　山田篤裕研究会)は、12月2日の決勝プレゼンテーションにて、特別ゲスト(本年度は経済産業省日暮正毅様、早稲田大学教授戸崎肇様にお越しいただきました)、参加者、観覧者の皆様の投票によって選出される政策提言賞を争いました。また、12月1日の第2次論文審査中に決定された最優秀論文書、特別奨励賞の発表、各分科会の中で最も優秀な発表を行った研究チームを表彰する分科会賞の発表同時に行いました。

政策フォーラムはISFJ2012のテーマに則り、「学生の提言を様々な専門家の方々に対し行い、学生の声を社会に届け、広く議論を行うこと」を目的とし、かつ「学生が自ら学び・考え・形にした論文の発表の場を設けること」、そして「政策に対し意識の高い学生同士の交流の機会を設け日本全国にまたがるネットワーク構築の一助となること」をも目的としておりました。掲げた目標が達成されたのか否かのご判断は参加者の皆様、ゲストの皆様によりなされるものであるかと思います。しかし、6か月の間行われたISFJ2012の活動が皆様にとって、そして日本の未来に資するものであることを運営委員一同願っております。